

令和3年度 事業実施報告書

一般社団法人 北陸地域づくり協会

事業名 (個別メニュー)	信濃川治水歴史巡り(せきぶん治水歴史ウォーク)	事業経緯	継 続	実施体制	協 力	担当所属	新潟支所
事業名 (大項目)	地域の利用・整備・保全に関する広報事業	分類名 (中項目)	広報・啓発活動支援事業		事業区分	体験活動等	

1. 事業目的

越後平野を貫流する信濃川は昔から洪水を繰り返し、その被害の痕跡は今も地域に残っている。また、信濃川下流域には、川と共存するための智恵や工夫の様子、治水を志した先人たちの業績を記した史跡等も多く残されている。また関屋分水路は2024年に通水50周年を迎えることから、関屋分水周辺の治水に関する史跡や河川管理施設をめぐる、治水の歴史やそこに育まれてきた文化を学び、理解の深化や洪水等に対する防災意識の高揚を図ることを目的とする。

2. 事業実施体制

主 催：国土交通省信濃川下流河川事務所
協 力：(一社)北陸地域づくり協会

3. 事業実施概要

日 時：令和3年10月24日(日) 9:10～12:00

行 程：

- 関屋出張所・関屋分水資料館—新潟大堰—関分記念公園
- 関屋分水(関屋堀割跡・競馬場踏切・関分公園(競馬場跡の碑))
- 関屋分水花文字—信濃川水門

参加者：13名(応募)

講師(解説員)：

- ・信濃川下流河川事務所、関屋モリ上げ隊

4. 事業実施による効果(評価・貢献度等)

平成18年からとして継続しており今回で15回目であるが、ほぼ毎回、定員を上回る申し込みがあり、近年の「まち歩き」への関心の高さと相まって、興味を集めている。令和2年度はコロナ禍により中止となったが、本年は関屋分水路周辺の治水の史跡や河川管理施設を巡るウォーキング形式で開催となった。本事業は、とかく希薄になりがちな地域の成り立ちや防災への意識を啓発する取り組みとして有効である。参加者には水害と治水に関する歴史、育まれてきた文化に対する理解を深めてもらい、災害に対する防災意識の高揚を図った。



出発式の様子



関屋分水資料館



関屋出張所 操作室



新潟大堰竣工碑を背に記念撮影

